

独裁化に進むゼレンスキー政権

①ゼレンスキー政権独裁化への道

ゼレンスキー大統領はユダヤ人なので、「ユダヤ人や黒人は皮をひん剥いてやる」と公言して憚らないネオナチ勢力とは緊張関係にあります。彼はドンバス地方の出身でロシア語話者でしたが、大統領になると主戦論を唱える極右民族主義者たちの圧力もあって、「ドンバス地方に特別の自治権を与える」ことなどが盛り込まれた停戦協定(ミンスク合意)を破棄し、ドンバスのロシア語話者らに対する攻撃を続けています。

ゼレンスキー大統領は最大の野党である「プラットフォーム—生活党」をはじめ、ロシア語系住民を支持基盤とする 11 の政党の活動を禁止し、テレビチャンネル「112. ウクライナ」、「ニュースワン」、「ZIK」など批判的なメディアもつぶして国営テレビ1局に絞るなど、事実上の独裁政権になっています。ウクライナ大統領レオニド・クチマの顧問を務めたオレグ・ソスキンは、ロシアとの紛争を口実としてウクライナに「ファシスト政権」が形成されつつあると言いました。

40-41頁

ゼレンスキー独裁政権への動き



ウクライナのゼレンスキー大統領は2022年3月20日、国内の親ロシア的な複数の政党の活動を一時禁止すると発表しました。戒厳令の期間中は、同国最大の野党である「プラットフォーム—生活党」をはじめ、11の政党の活動を禁じると表明しました。

ウクライナはかねて、汚職・収賄・横領など、腐敗度が酷い国として世界に知られています。

腐敗認識指数(CPI)という指標がありますが、トランスペアレンシー・インターナショナル(TI)が1995年以来毎年公開しているもので、最も清潔な状態を100、最も腐敗している状態を0として採点されており、2021年の評価では日本は73で15位、ウクライナは32で122位でした。

民主主義指数(DI)という指数がありますが、週刊誌エコノミストを刊行するイギリスの民間企業、エコノミスト・グループ傘下の調査部門、エコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)研究所によって発表されている指数で、60種類の指標を選挙過程と多元性、政府機能、政治参加、政治文化、人権擁護の5部門に分類し、それに基づいたスコアの平均から計算されています。2022年の調査で、日本は8.33(16位)、ウクライナは5.42(87位)でした。